

国語（現代文）

（五枚のうち1）

問題一

問一 次のa～eの意味を表す語として最も適当なものを、後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。解答番号はa - 1, b - 2, c - 3, d - 4, e - 5。

- a あまねく知ること。知れわたっていること。
b 完全無欠の知恵。
c 機に応じてはたらく知恵。機知。
d 嫌出でない子と父または母との間に法律上の親子関係を成立させること。
e 告げ知らせること。

- ① 検知 ② 認知 ③ 承知 ④ 未知 ⑤ 通知
⑥ 周知 ⑦ 探知 ⑧ 頗知 ⑨ 無知 ⑩ 全知

問一 次のa～eの傍線部の「ヨウ」の漢字として最も適当なものを、後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。解答番号はa - 6, b - 7, c - 8, d - 9, e - 10。

- a エリートの両親は我が子が凡ヨウであることを認めなかつた。
b 参加した全ての国と地域の旗が競技場に掲ヨウされている。
c 世襲候補のヨウ立には疑問の声もある。
d 厳しい追及に動ヨウを隠せなかつた。
e 議長は議論のヨウ点を整理すべきである。

- ① 摆 ② 擁 ③ 揚 ④ 陽
⑥ 養 ⑦ 庸 ⑧ 洋 ⑨ 要 ⑩ 様
⑪ 11 ⑫ 12 ⑬ 13 ⑭ 14 ⑮ 15

問三 次のa～eの空欄には慣用句を構成する語が入る。それぞれ最も適当なものを、後の①～⑩の中から一つずつ選び、その記号を答えよ。解答番号はa - 11, b - 12, c - 13, d - 14, e - 15。

- a 関係者と話を進めていたのに、急な方針変更で（ ）を外されて面目丸つぶれだ。
b 余震が続き被災者は依然避難生活を（ ）なくされている。
c 米不足のため（ ）の策として始めた麦飯が意外に好評で、今もメニューに残っている。
d 往年の賑わいを知る私には、昼間もシャッターの目立つ通りは（ ）の感がある。
e 残念ながら経営不振の元凶が自分だと分かつていない社長に（ ）を渡せる人はいない。
- ① 苦肉 ② 幻影 ③ 引導 ④ 快哉
⑤ 秘薬 ⑥ 背水 ⑦ 余儀 ⑧ 隔世 ⑨ 秘薬 ⑩ 蝶番
⑩ 梯子 ⑪ 11 ⑫ 12 ⑬ 13 ⑭ 14 ⑮ 15

問四 次のa～eの空欄に入る最も適当な動詞を、後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。解答番号は

a - 16 , b - 17 , c - 18 , d - 19 , e - 20 。

- a 被災地で人をだますような人倫に（ ）行為は決して許されるものではない。
 b 詐欺師を（ ）なんて末恐ろしい子どもだ。
 c 毒蛇が（ ）ように私の胸中によこしまな考えが住み始めた。
 d 祖母には人の家柄や学歴を（ ）ところがあつた。
 e いつの間にか利己主義が（ ）組織に成り下がつていた。

- ① たかる ② たける ③ たらす ④ はびこる ⑤ あげつらう
 ⑥ いたむ ⑦ もどる ⑧ よぎる ⑨ いなおる ⑩ わだかまる

問題一 次の文章を読み後ろの設問に答えよ。

とりわけ農業生産の現場では、野生獣による害という切実な現実問題がある。それはもはや自然の「管理（management）」という、一生物にすぎない人間にとつては、まことにおこがましい領域に手を染めなければならない段階に達していると書いたが、a それを容認するなら、そのための考え方と限界とを、自覺的に認識したうえのことでなければならない。

ダーウィンは人間と動物には基本的に違いはなく、あつても程度の問題にすぎないとしたが、^注 ディープ・エコロジーもそれを強調した。しかしよく考えてみれば、人間と動物は生物として同等といつても、その差異はなお大きいことも確かである。b 一方的かつ断定的に、動物は機械だとするデカルトに与することはないとしても、また動物に対する差別的な思考を取らないとしても、人間は複雑な言語をもち、経験し獲得したものを蓄積していく文字や記号を発明し、いまや圧倒的な技術を獲得している。猛スピードで空を飛び、地を走り、山をも動かすダイナマイトやブルドーザーをもつ。地球のどこにでも瞬時に情報を送り、宇宙の星に飛んで情報を集める。あるいはみずからをも滅亡させかねない核兵器をもつ。むろん害獣を撃つ銃をもち、その気になればどんな動物たちも、あつという間に絶滅させる力をもつていて。

このような、人間という生き物と動物たちを、どこまでも同一というわけにはいかない。いまや両者の差異はますます拡大し、人間は巨大な力を手に入れている。ひとたび人間が暴發したときには、手のつけられない結果を招くことになる。もはや、動物は人間と基本的に同じという原点を確認したうえで、人と動物の現実的な差異を語らないわけにはいかない。

また人間は、ものごとの原因と結果を総括して判断し、みずからの所業を反省し行動するという「思想性」に富む存在である。動物たちの意図する行動や感情を類推し、愛おしみ、気遣う情念をもつ存在もある。だからこそ、野獣の侵害を憎みつつも、もはやそれを絶滅させることはないし、過度に追い詰めることもない。たとえ専門的な生態学の知識のない一般の人たちでも、いや一般の人たちだからこそ、害を及ぼすサルを「あれも土地のもんだから」とか、「シカやイノシシも生きていかなきやなんから」などというのである。

北海道のエゾシカと農業経営の関係を構築する過程で見られたように（第5章）、みずからの生活と被害の程度を見極めながら、動物たちと折り合いをつけ、棲み分けるため、農業空間や林業空間に過度に害を及ぼさない仕掛けを考案し、それでもやむなく全体の頭数管理をおこなうという、日本でもっとも体系的な「保護・管理」の構想が北海道で具体化された。シカと人間の長い歴史を踏まえたこの地域の方向は、なお議論は残るが、ほぼ社会的に承認されてきている。

注 形成均衡の場所というべき、こうした考え方による以外、とりわけ農林業における鳥獣害の現実から見た場合、もはや人と動物の関係を適切に維持する方法はないように思われる。

だが、人が動物数を制御し、自然を管理するなど、まことにおこがましいことであるのはいうまでもない。アメリカの植物学者ミューアは、一九世紀末から原生自然の価値を訴えた自然保護の先駆者とされるが、彼は人間が自然の統治者ではありえず、生態系共同体の一員でしかないことを強調した。西洋的な人間中心主義を批判し、野生の動物や植物、そして岩石にいたるまで、すべての自然是人間のために存在するのではなく、それ自身のために存在するとして、環境それ自体に価値があるという生態中心的な環境倫理論の先駆となつた。

しかし二〇世紀の初頭、若い日に森林官を務めたレオポルドは、ミューアと同じ共同体の思想に立ちながらも、人間の力が強大になり、自然に大きくかかるようになつたいま、土壤、水、植物、動物など、地域のすべての自然物が全体として適切に結合されるよう、人はその管理者としての役割を果たさざるを得ない、との考えを示した。そこには、地域生活、エコ・ユニット（一つのまとまりをもつた生態環境）の個性的諸条件に配慮する「土地倫理（land ethics）」という概念が貫かれている。ま

た彼は、経済偏重の科学的な農業、自然略奪的な農業は疑問であるとし、生物の本性を生かす農業に希望を託している。人間は単に地球の使用権が与えられているだけで、自然の濫用は許されていないとする環境倫理を説いたマーシュの影響も受け、自然の管理にあたつての人間の高い倫理性と知性に期待している。総じて人間と地域自然総体のバランスを重視しているといえよう（『野生のうたが聞こえる』）。

このようにすでに一〇〇年前に、西洋の人間中心主義を批判しつつ、近代経済社会が自然を破壊しているとし、もはや人間の理性にかけて自然の管理に手を染めざるを得ないとする考え方が生まれていたのである。

こうして、人間は動物と同根だが、大きな違いがあることも明らかであり、それを自覚的に見定め、折りあえる地点を見出し、形成均衡の場所を創り、人間と野生獣とが適切に棲み分け共存していくことが必要だと考える。そこは構想され創造された「生命共同体」の場所であるといつてもよい。それは思想、理性、情の融合する場所、（e）、科学、宗教のゆるやかに統合された世界と言い換えてもよいかもしない。

だがそのような一種のユートピアが、人間の自然管理で可能だと、軽々しく考えるのは、あまりにも傲慢というものであろう。人間の自然管理は、人間があまりに自然を蚕食し、ますます技術力を高めて、そのまま突き進みかねないというおそれから、みずからの反省をうながして独走を押しとどめ限界づけようとする、あくまで消去法的なやむを得ない手段にすぎない。まして今日の世界は、反省どころか大競争時代に入り、どうにも止まらない状況にある。また、自然は複雑系そのもので、人間はまだ自然の内実を十分に知らないし、その解明もほんの入り口に立っているだけといつてよい。そして今後も、自然のすべてを知ることなど不可能であろう。

繰り返すことになるが、こうした限界を認識しつつ、動物や植物の「声なき声を聴き」、「感動と畏敬、祈り、感謝」に裏打ちされた、謙虚な「怖れながらの管理」、動物たちや自然全体への対処が求められると、私は考える。

さらに知つておかなければならないのは、しばしば使われてきた「地球上に優しい」という言い方のなかにある“欺瞞性”である。地球は気の遠くなるような歴史のなかで、無数の火山が噴き出す灼熱の時代もあれば、あらゆる生物の存在を許さないような氷河期もあった。二度や三度の温度差の変化など、地球自身の歴史にとつては変化に値しない。地球は人間に何も期待しないし、少々の変化も何事でもない。地球はただそれ自身の歴史を刻んできたのである。変化が問題だというのは、人間の生活・生命自体にとつて問題であるにすぎない。「地球上に優しい」などとは、人間を中心と考えた言い方でまとことにおこがましいことだと思うのである。後に述べるように、わずか〇・八五度の地球温暖化が北極海などの氷の融解を急速に進め、気流の流れを変え、海水温とその流れを変え、人間生活に大きな被害をもたらしつつある。

私たちには、私たち自身の現実への反省と、共に生きる多くの生命体への思いを重ねる以外に、未来はないのである。管理といつても、まずはそれぞれの生活圏において、経済、生活、生態環境などの諸側面を適正に統合し、欲望を自制し、持続的な地域を確立すること、そうした地域が世界的に連鎖するときにのみ、人間と生物にとつて棲みよい地球があるというにすぎない。そして私がその可能性を見たいのは、日常的な生活世界に生きる庶民の経験知の蓄積である。私は先に、日本庶民の動植物をも対等にみる「草木国土悉皆成仏」という伝統的な動物観、自然観は、明治以降とくに戦後の高度成長下において、「米と魚」から「パンと肉」へ転換する過程で、事実上消失してしまったのではないかと述べた。しかし前の章で述べた樋上平一郎の「稻様と話をする米作り」、中国山地の有井晴之に続く人たちが建てた「鳥獸慈命碑」、北海道の畜産農家の「畜魂」と書かれた碑などに見るように、直接、動植物や自然総体と向きあう人々は、なおその痕跡を残している。

そしてデカルトがどのように定義しようとも、すでに述べたように西洋の農業者もまた、牛や馬などの動物が情感をもたないなどと、まったく思つていないのである。西洋の民も東洋の民も、そしていまや世界の民も、経済合理性を至上とする市場社会において、効率化・組織化されてはいる

が、是正すべき多くの「市場の失敗」を抱え込んだ社会に、同時代の民として生きている。これまで述べたように、「感動と畏敬、祈り、感謝」の念をもつて動物たちと向き合い、私たちの「怖れながらの管理」によって、人に害を及ぼす野生獣を含む動物たちと折りあい、「形成均衡の場所」、持続性に富んだ人と動物の「共存・共棲の場所」を創出する必要がある。そこでは、互いの差異、多様性を認めあいながら、歴史的に対照性を色濃く示してきた東西の動物観、自然観を、いまこそ止揚し、「感動と畏敬、祈り、感謝」の念を原点として、大筋において同じ方向性をもつ共存・共棲の理念を共有し、動物たちとともに生きていくことではなかろうか。

（祖田修『鳥獸害』に拠る。出題の都合で小見出し等は省略した。）

注 ディープ・エコロジー：ノルウェーの哲学者アルネ・ネスが提唱した環境思想で、人間に役立つものとして環境を保護しようとする旧来の考え方に対するもので、20年代以降の環境保護運動に大きな影響を与えている。

形成均衡：筆者独自の用語。

問一 傍線部aの「それを容認するなら」を、指示内容を含めて平易に言い換えるとどうなるか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 21。

- ① 野生獣による害は人間が自然の管理に手を染めなければならない段階に達していると認めるなら
- ② 野生獣による害は人間が自然の管理に手を染めなければならぬ段階に達していると認めるなら
- ③ 野生獣による害は人間が自然の管理に手を染めなければならない段階に達していると容易に認識できるからには
- ④ 一生物にすぎない人間が自然の管理に手を染めることを認めて許可するなら
- ⑤ 一生物にすぎない人間が自然の管理に手を染めることはまことにおこがましいことだと認識するなら

問二 傍線部bの「一方的かつ断定的に、動物は機械だとするデカルトに与することはないとしても、また動物に対する差別的な思考を取らないとしても、」の中の二つの「としても」を受ける表現は、本来あるべき直後の句点までの部分にはない。では、この後のどの表現がそれに該当するか、次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 22。

- ① むろん害獸を撃つ銃をもち、その気になればどんな動物たちも、あつという間に絶滅させる力をもつてゐる。
- ② このような、人間という生き物と動物たちを、どこまでも同一というわけにはいかない。
- ③ ひとたび人間が暴発したときは、手のつけられない結果を招くことになる。
- ④ 動物たちの意図する行動や感情を類推し、愛おしみ、気遣う情念をもつ存在でもある。
- ⑤ 形成均衡の場所というべき、こうした考え方による以外、とりわけ農林業における鳥獸害の現実から見た場合、もはや人と動物の関係を適切に維持する方法はないようと思われる。

問三 傍線部cの「自然の管理にあたつての人間の高い倫理性と知性」の具体例に相当するものとして適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 23。

- ① 地球のどこにでも瞬時に情報を送り、宇宙の星に飛んで情報を集める
- ② ものごとの原因と結果を総括して判断し、みずからの所業を反省し行動する
- ③ 動物たちの意図する行動や感情を類推し、愛おしみ、気遣う
- ④ みずからの生活と被害の程度を見極めながら、動物たちと折り合いをつけ、棲み分けるため、農業空間や林業空間に過度に害を及ぼさない仕掛けを考案し、それでもやむなく全体の頭数管理をおこなう
- ⑤ 西洋の農業者もまた、牛や馬などの動物が情感をもたないなどと、まつたく思っていないし、動物をいたわりかわいがつていている

問四 傍線部dに「構想され創造された」とあるが、それは誰によつてか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 24。

- ① 神
- ② 人間
- ③ 動物
- ④ 自然
- ⑤ 地球

問五 文中の空欄eに入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 25。

- ① 産業
- ② 農業
- ③ 文学
- ④ 医学
- ⑤ 哲学

問六 傍線部fの「こうした限界」とは具体的にはどういう限界か。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 26。

- ① 形成均衡の場所という一種のユートピアが人間の自然管理で可能だと考えられるという限界
- ② 人間の自然管理は消去法的なやむを得ない手段にすぎないという限界
- ③ 今日の世界は大競争時代に入り、どうにも自然の蚕食が止まらない状況にあるという限界
- ④ 人間はまだ自然の内実を十分に知らないし、今後も自然のすべてを知ることなど不可能であるという限界
- ⑤ 人間の自然管理は他に方法がないためやむなく選んだ手段にすぎない上に、人間はまだ自然の内実を十分に知らないし、その解説もほんの入り口に立っているだけだという限界

問七 傍線部gの「しばしば使われてきた『地球に優しい』という言い方のなかにある“欺瞞性”」とは何か。次の①～⑩の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 27。

- ① 偉大な地球に対して卑小な人間が優しさを示せるはずがないこと
- ② 人間には大きな被害をもたらしても、地球には少々の変化は何事でもないこと
- ③ 地球は人間に何も期待しないのに、一方的に優しさを押し付けていること
- ④ 自然を蚕食しておきながら、人間を中心に考えた言い方でまことにおこがましいこと
- ⑤ 人間には好都合だが、地球にはどうでもよいことを、地球にとつてありがたいことのように言うこと

問八

傍線部hの「日本庶民の動植物をも対等にみる『草木国土悉皆成仏』という伝統的な動物観、自然観」が具体的に示されている箇所が文中にある。それはどこか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 28。

- ① 人間と動物には基本的に違いはなく、あつても程度の問題にすぎない
- ② 害を及ぼすサルを「あれも土地のもんだから」とか、「シカやイノシシも生きていかなきやなんらんから」などというのである
- ③ 野生の動物や植物、そして岩石にいたるまで、すべての自然は人間のために存在するのではなく、それ自身のために存在する
- ④ それぞれの生活圏において、経済、生活、生態環境などの諸側面を適正に統合し、欲望を自制し、持続的な地域を確立する
- ⑤ 「感動と畏敬、祈り、感謝」の念をもつて動物たちと向き合い、私たちの「怖れながらの管理」によって、人に害を及ぼす野生獣を含む動物たちと折り合い、「形成均衡の場所」、持続性に富んだ人と動物の「共存・共棲の場所」を創出する

問九 傍線部iの「互いの差異、多様性」とは何と何の「差異、多様性」か。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 29。

- ① 人間と動物
- ② 人間と地球
- ③ 人間と自然
- ④ 西洋の民と東洋の民
- ⑤ 生態学者と一般の人たち

国語（現代文）

（五枚のうち1）

問題一

問一 次のa～eの意味を表す語として最も適当なものを、後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。解答番号はa-1、b-2、c-3、d-4、e-5。

- a ときあかすこと。不明な点をはつきりさせること。
- b 文教が進んで人知の明らかなこと。
- c あざやかであきらかなこと。はつきりとしていること。
- d 意見・主張などを公に発表すること。
- e 夜がまだすっかり明けきらない時。

- ① 透明 ② 鮮明 ③ 解明 ④ 説明 ⑤ 判断
- ⑥ 文明 ⑦ 声明 ⑧ 証明 ⑨ 未明 ⑩ 不明

問二 次のa～eの傍線部の「ボウ」の漢字として最も適当なものを、後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。解答番号はa-6、b-7、c-8、d-9、e-10。

- a 了解も得ずに写真を撮るのは横ボウな行為と言わざるをえない。
- b 先月は膨大な資料の整理にボウ殺されていた。
- c その味噌汁は私に強いボウ郷の念を抱かせた。
- d 攻撃は最大のボウ御なりということか、証言者を激しく非難した。
- e 意外な人物が反乱の首ボウ者だつた。

- ① 坊 ② 嫉 ③ 防 ④ 傍 ⑤ 暴
- ⑥ 謀 ⑦ 某 ⑧ 望 ⑨ 亡 ⑩ 忙

問三 次のa～eの空欄には慣用句を構成する語が入る。それぞれ最も適当なものを、後の①～⑩の中から一つずつ選び、その記号を答えよ。解答番号はa-11、b-12、c-13、d-14、e-15。

- a （ ）から出たさびで、品行下劣な彼の女性たちからの評価は最低だつた。
- b 予想外の合格の知らせに（ ）を失つて、人前で奇声を上げてしまつた。
- c 父が私の提案に反対するのは、（ ）を見るよりも明らかだつた。
- d 今更（ ）を揉んでもしかたがないから、成り行きにまかせよう。
- e 母の私に対する苦言を、父は我が（ ）を得たりという顔で聞いていた。

- ① 意 ② 絵 ③ 気 ④ 背
- ⑤ 利 ⑥ 度 ⑦ 火 ⑧ 身
- ⑨ 利 ⑩ 和

問四 次のa～eの空欄に入る最も適当な動詞を、後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えよ。解答番号は

a - □ 16 , b - □ 17 , c - □ 18 , d - □ 19 , e - □ 20

- a 命を差し出しても（ ）ない罪を犯したのだ。
- b 来店者が半減し、店の収入だけでは家族の生活費も（ ）なくなつた。
- c 周りの者たちの動向に（ ）ないではいられない、へそ曲がりな人だつた。
- d 労働基準法に（ ）ない就業契約は無効だ。
- e 誰の説得にも（ ）ない決意を彼女は秘めていた。

- ① あがなえ ② まかなえ ③ ほだされ ④ ひとりごた ⑤ ゆるが
- ⑥ あらがわ ⑦ のつとら ⑧ たじろが ⑨ ほくそえま ⑩ さわら

問題二 次の文章を読み後ろの設問に答えよ。

ここまで見てきたのは、職場の側の論理である。では、受け手の側の学生は、なぜそれを受容するのか。その要因は大きく分けて四つである。

第一に、すでに紹介した「责任感」だ。「责任感」は学生の内面から自発的にわき上がつてくるものであると同時に、これが巧みに管理者によって活用されている。

ただし、こうした「责任感」は「生活」に本来制約されているのであり、必然的に作動するものではない。その背後にあるのは、第二以下の要因だ。

a 第二に、企業の高度に発達した生産システム（流通・サービスの提供過程）が、学生の意識をからめとつていて。その中で、彼らは「歯車」のように職場に順応する。

第三に、すでにみたフランチャイズ形式の職場システムや、学生自身に「達成感」を与える労務管理が、彼らが「歯車」になることを円滑に誘導する。私はこれを「想像の職場共同体」と名付けている。

そして第四に、日本社会のマクロな権力構造がブラックバイトを苛烈にさせる土壤となつていて。それは、「人的資本万能主義」ともいうべき社会規範である。

さらに第五に、もつとも深刻な要因は、学生の「貧困化」である。学費の高騰と親世帯の収入の減少が、学生に長時間就労せざるをない状況をつくり出している。

（中略）

学生が「ブラックバイト」に自らはまり込む第四の要因は、「人的資本万能主義」の浸透による、学生を取り巻くマクロな権力関係の変化である。この権力関係は、学生に労働市場における「契約当事者」としての権利意識を持つことを許さない。

学生アルバイトに対する最大の「殺し文句」がある。それは、「これではおまえは社会で通用しない」というものだ。労働相談、労使交渉の場になると必ずと言つていいほど直面する。こうした言葉が学生に強力に作動するのは、彼らの多くがアルバイトを「社会経験」だと思い、参加しているからに他ならない。次のような証言はわかりやすい。

私は今、塾でバイトをしているのですが、時給は授業をしている間だけです。これはおかしいと思うのですが、将来教員になりたいのでその練習として働いたりしている部分もあります。また、今幹部のような扱いなので、それが就職活動をもしするとなつたときに経験として生きてくるのかと思う反面、なぜ給料が出ないのという不満もあります。

この記述はある授業のアンケートに答えてくれたもので、本人はその後も未払い賃金を請求していない。この記述からわかることは、彼らがアルバイトを直接の就職活動や就職後のキャリアに結びつけて考えていることだ。アルバイトを社会経験として行う慣行は以前からあるのだが、b その「比重」はまったく違つたものになつていて。

以前であれば、大学生は基本的に就職の可能性が保障されていた。アルバイトが社会経験だといつても、それが直接に将来役に立つものだと、就職活動を有利にするものだと考える者はあまりいなかつただろう。就職活動は大学や学部の所属、あるいは所属ゼミや部活動の人脈に決定的に規定されていた。

だが、今ではむしろ、学校の勉強ができるなどということよりも、「アルバイト先でリーダーをやっている」ほうがよほど社会的なステータスが高いと考える学生が大勢いる。学校の勉強や成績が将来の就職や仕事に役立つかわらないのに比べ、アルバイト経験は直接的に「就職活動の売りになる」というわけだ。

そして、何の役に立つかわからない学問を教える学校の先生よりも、職場の先輩や、上司にあこがれる。そもそも、授業よりも仕事のイメージがつきやすく、具体的に能力が評価されるアルバイトのほうが「面白い」のである。^cこうした学生のアイデンティティの所在の移転は、彼ら自身の現実の「居場所」の比重をアルバイト先に移動させている。

彼らにとつて「仲間」がいるのは授業やゼミではなく、アルバイト先なのであり、学生生活の人間関係の中心はそこで築かれ。最近では大学の「サークル崩壊」は顕著になつておらず、大学が学生たちにサークル活動をするように指導するところまである。

学生にとつての自己評価、社会的承認の内容は、「学生であること」ではなく、アルバイト先の評価、承認へと変貌しているのだ。

『ブラックバイト』（堀之内出版）の共著者である教育学者の大内裕和は、戦後の学校教育に貫して内在してきた職業と学業との分断状況が、こうした状況の背後にあると指摘する。そして、日本型雇用という「学校→就職」のルートが崩壊することで、一気に学生の居場所をアルバイト先に移動させたというのである。

d このような変化が、すでに見た「想像の職場共同体」を、その外側にある社会の側から支えている。「想像の職場共同体」へと子どもを学校や社会が押し込み、そこから逃がさない役割を果たしている。あくまでそこは「居場所」なのだから、彼らの「労働者」としての意識は希薄である。

しかも、e この「居場所」は学生や親から、「成長の機会を与える」ものと見なされていることが、より事態を悪化させる。前節で指摘したように、「企業業績＝自分の成長」だと考えだ。これを言い換えるなら、アルバイト経験は自分自身への投資、すなわち「人的資本への投資」だということになるだろう。

そもそも、「人的資本」とは、ゲーリー・ベッカーにより提唱され、今日の教育学には多大な影響力を持つている概念である。人的資本論に基づけば、人間は一つの「資本（株式会社）」と見なされる。そして、彼らは「所得」を生み出すために、自己自身への投資を計算し、行動するものとされる。実際に、資格試験の氾濫や大学一年生からの「キャリア教育」によって、今日の学生たちは、自らの「人的資本への投資」による生き残りを強く意識させられている。

だが、どの社会においても、「人的資本」だけでこの社会を生き抜くことはできない。労働条件を規制する労働法、生活を保障する社会福祉制度、それらが「人的資本」に基づく「所得」を補完して、はじめて生き抜いていくことができる。それが現代の資本主義社会である（仮に「人的資本」の概念を受け入れるとしても、である）。つまり、人間は完全に「資本」として自立することは不可能で、f 「労働者」や「学生」など、社会的な立場を持ち、それに守られている。

それにもかかわらず、今日の日本社会には、「人的資本万能主義」ともいうべき思想が蔓延している。「労働者の立場」からの権利行使や待遇改善、あるいは労働法制の改善ではなく、もっぱら「自分の能力への投資」でこの社会を生き残ろうとする姿勢である。これがブラックバイトを促進している。

g 学生は「経験のため」や「社会で通用しない」などと言われると、h 簡単に労働法が定めた「労働者としての権利」を、自発的に放棄する。自らの拠り所を「人的資本」に預け（させられ）ているために、労働政策や雇用・福祉政策は疎遠なものに感じる。このような意識が浸透した労働者に対してこそ、本章で見てきたような労務管理は絶大な威力を發揮するのだ。

ブラック企業対策プロジェクトのアンケート調査結果からも（i）や権利意識の希薄さが見て取れる。不当な扱いの経験率は七割弱（六六・九%）ある一方で、不当な扱いを経験した学生の半数近く（四八・八%）は、何も対処していない。また、募集内容と実際の仕事の内容・労働条件が違っていた者は約一割（九・八%）もいる。契約書がないほど労働条件が悪いことも示されている。

もはや言うまでもないことだが、ブラックバイトが「人的資本投資」となる保証など、どこにもない。それどころか、過剰な労働は学生としての生活を破綻させる大きなリスクを抱えている。第5章で再度論じるが、本来の「人的資本論」の考え方からしても、ブラックバイトの経験は逆効果なのである。

（今野晴貴『ブラックバイト』に拠る。出題の都合で小見出し等は省略した。）

問一 傍線部aの「第二に」から六行の三つの要因の述べ方に少し違和感を覚える。それはどうしてか。次の①～⑤の中から最も適当な説明を一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 21。

- ① 四つと言いながら五つ並べていいから
- ② 要因と言ふほどのものではないのも含まれているから
- ③ 要因はこれだという述べ方になつていなかから
- ④ 大きな要因から順に並べていないから
- ⑤ 内容に重複する部分があるから

問一 傍線部bの「その「比重」」とは何の何における比重か。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 22。

- ① 社会経験のキャリアにおける比重
- ② 社会経験の社会的なステータスにおける比重
- ③ アルバイトの社会経験における比重
- ④ アルバイトの学生生活における比重
- ⑤ アルバイトの就職活動における比重

問三 傍線部cの「こうした学生のアイデンティティの所在の移転」とはどこからどこへの移転か。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 23。

- ① 社会経験から就職活動
- ② サークル活動から就職活動
- ③ 学校の先生から職場の先輩や上司
- ④ 授業からアルバイト
- ⑤ 学校から職場

問四 傍線部dの「このような変化が、すでに見た「想像の職場共同体」を、その外側にある社会の側から支えている。「想像の職場共同体」へと子どもを学校や社会が押し込み、そこから逃がさない役割を果たしている。」という連続する二つの文と文の関係には、本文中の数箇所に見られる、筆者の文体の特徴がよく現れている。では、この二つの文と文はどういう関係になっているか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 24。

- ① 接続詞等の文と文の関係を示す表現のない、言い換えの関係
- ② 接続詞等の文と文の関係を示す表現のない、逆接の関係
- ③ 接続詞等の文と文の関係を示す表現のない、並列の関係
- ④ 接続詞等の文と文の関係を示す表現のない、原因・結果の関係
- ⑤ 接続詞等の文と文の関係を示す表現のない、後ろの文が前の文の内容を説明する関係

問五 傍線部eに「」の「居場所」は学生や親から、「成長の機会を与える」ものと見なされていることが、より事態を悪化させる」とあるが、それはどうしてか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 25。

- ① アルバイトであるのに、労働者という意識よりも経営者という意識を持つて、契約条件や労働条件を不必要なものと見なし、仲間も自分と同じように働くべきだと考えるようになるから。
- ② ただでさえ労働者としての意識が希薄で、労働者の当然の権利を主張しない上に、不当な扱いを受けても、成長の機会を与えてもらつているからと、泣き寝入りしてしまうことにつながるから。
- ③ 学生は労働者の権利に関する知識が十分でないため、それでなくともつけ込まれがちであるのに、アルバイト経験は自分自身への投資だからと不当な扱いを受け入れてしまうから。
- ④ 学生自身はもちろん、社会経験が豊富で本来学生に的確なアドバイスができるはずの親までもが、成長の機会を得るものとして、積極的にブラックバイトの価値を認めてしまうから。
- ⑤ アルバイトの職場は学校よりも成長の機会を与えてくれるものであると考えるため、サークル活動などには目もくれず、学生の本分である学業までおろそかにしがちになるから。

問六 傍線部fの「「労働者」や「学生」など、社会的な立場を持ち、それに守られている」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 26。

- ① 現代の資本主義社会の構成員は、ある一つの社会的立場を持つことで、その立場に応じた諸制度により「所得」を補完されて、健全に生きられるようになつていているということ
- ② 労働条件を規制する労働法と生活を保障する社会福祉制度が、人々が社会的立場を持つことを可能にし、さらにそれが自立を可能にしているということ
- ③ 「人的資本」に社会的な立場を取り入れることで初めて「自立」できるようになり、労働法や社会福祉制度がもたらす恩恵を享受できるようになるということ
- ④ 学生のアルバイトであつても、「労働者の立場」から、権利行使したり、待遇や労働法制の改善を要求したりして、幸福を追求する権利が保障されているということ
- ⑤ 現代の資本主義社会では、社会において各自の置かれている立場に応じた社会的義務を果たすことで、社会が社会福祉等の諸制度によつてその構成員を守つてているということ

問七 傍線部gの「学生は「経験のため」や「社会で通用しない」などと言われると」という表現には、規範的な日本語として適切とは言い切れない部分がある。それはどこか。次の①～⑩の中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 27。

- ① のため
- ② や
- ③ 通用しない
- ④ などと
- ⑤ 言われると

問八 傍線部hの「簡単に労働法が定めた「労働者としての権利」を、自発的に放棄する」とほぼ同じ内容を表す文中の表現として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 28。

- ① この権力関係は、学生に労働市場における「契約当事者」としての権利意識を持つことを許さない
- ② 彼らがアルバイトを直接の就職活動や就職後のキャリアに結びつけて考えている
- ③ 労働条件を規制する労働法、生活を保障する社会福祉制度、それらが「人的資本」に基づく「所得」を補完して、はじめて生き抜いていくことができる
- ④ 「労働者の立場」からの権利行使や待遇改善、あるいは労働法制の改善ではなく、もっぱら「自分の能力への投資」でこの社会を生き残ろうとする
- ⑤ ブラックバイトが「人的資本投資」となる保証など、どこにもない

問九 文中の空欄iに入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その記号を答えよ。解答番号は 29。

- ① 職業
- ② 投資
- ③ 契約
- ④ 帰属
- ⑤ 当事者